

誰も、傷つかずに青春を通りすぎることはできない…



'Carnal Knowledge'

愛の狩人

パナビジョン ■ テクニカラー

* 5大スターの絢爛な顔合わせ
キャンディス・バーゲン
ジャック・ニコルソン
アン・マーグレット
アーサー・ガーファンクル
リタ・モレノ
製作・監督(卒業)のマイク・ニコルス

製作指揮ジョセフ・E・レビン ■ 脚本ジュールス・ファイファー ■ 撮影ジュゼッペ・ロトゥノ ■ アプコ・エンバシー映画提供 ブエナ・ビスタ映画配給



新春ロードショー 特別ご鑑賞券 ¥ 450 発売中

みゆき座
ヒビヤ (591) 5357

*みゆき座窓口/都内各プレイガイド/団体お申込みは日生エージェンシー(562)1971

愛の狩人

アプロ・エンバシー映画会社提供
ブエナ・ビスタ映画会社配給



〈卒業〉のマイク・ニコルズ監督がキャンディス・バーゲンやアーサー・ガーファンクルやジャック・ニコルソンなんかつかって肉体関係を見つめつつ青春の愛について考えてみた！

だれも愛や性をよけて青春を通りすぎることはできない——それがどんなに苦悩に満ちたものであっても……

ニューシネマというアメリカの清冽な波が日本の若者の心を揺さぶっている。そのなかでも不滅の金字塔を残す名作「卒業」は、なつかしいサイモンとガーファンクルの歌声とともにあなたをとらえていつまでも離さない。

「愛の狩人」はその「卒業」のマイク・ニコルズ監督の待望久しい問題の最新作であり、「卒業」以上の興奮と感動をまき起こすことはもう疑いのないことだ。アメリカでは今年の6月、主要都市でいっせいに封切られたが、そのときの熱狂の渦がもうそれを実証している！ニューシネマの若き旗手として出発したニコルズが、この「愛の狩人」に語り、訴えようとしたものはなにか！

愛するほうがいいか
愛されるほうが幸せか

「きみは女の子のことをどう思う？
愛するほうがいいか、愛されるほうが
いいか」

「ぼくは愛しているほうがいいな。
そのほうが幸せだ」

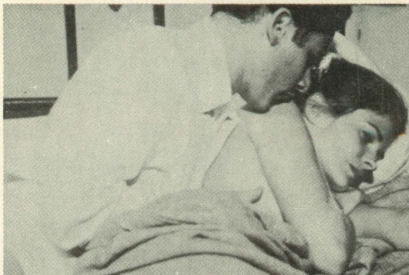
「ぼくはとてもそんな気持にはなれ
ないね。愛されるほうがいいよ」

映画のファーストシーンはもう、こ
んな魅力に満ちた会話ではじまる。

タイトルをバックに声だけが聞こえ
てくるがこの声の主はだれか。ひとり

はいまアメリカのヤングに圧倒的支持をもつ新しい魅力、ジャック・ニコルソン。もうひとり『S&G』の永遠の青春の旅人、アーサー・ガーファンクルだ。映画はこのタイプのちがうふたりの交遊を、これからかれらに関わってくる女たちとの、おもに肉体関係を中心に描かれていく。

愛するほうがいいというのはサンディ（A・ガーファンクル）であり、愛されるほうがいいというのはジョナサン（J・ニコルソン）だが、それぞれに異なった女性観をもつふたりが社会人になり、どのような人生を選んでいくのか、それは実に興味ある問題だ。



つらい時がきて
たよる友だちもいないときは
明日に架ける橋のように
ぼくが身を投げかけてあげよう
……………

ふたりの友情はこの『S&G』の大ヒット「明日に架ける橋」の1節のようにあたたかく思いやりに満ちている。

あなたの青春の息づきがきこえる

さらにこの2人に関わってくる女性たち、それはもうすばらしい。ひとりはこのところのりっぱなしのキャンディス・バーゲン。知的で清澄でレモンのような魅力をもうメッタメタにふりまいているのだ。さらにアン・マーグレット。アカデミー賞確実といわれるびっくりするような演技派への華麗なる変身である。

この4人の愛のドラマが、肉体関係を重要なファクターとして裾えつつニューヨークを舞台にがっちり展開していく。ときには自我をむき出しにし、悩み、迷い、激情に走ったりしながら……。そしてこの人たち、登場人物の現実感がなによりもあなたを圧倒する。そう、これはあなたたち自身のことを描いているのです！

それがマイク・ニコルズからの青春の愛と性についての鮮烈なメッセージだとよぶゆえんである。だから、この映画を観る人のすべてが、ここに自分の青春の息づきを感じとり、さらに将来の自分をここに予見していくことができるのだ。

もうこの映画は見のがすことはできない。ゼッタイに！

(1971年度アプロ・エンバシー映画／
テクニカラー／パナビジョン／1時
間36分)

〈キャスト〉

ジャック・ニコルソン／キャンディス・バーゲン
アーサー・ガーファンクル／アン・マーグレット
リタ・モレノ／シンシア・オニール
キャロル・ケイン

〈スタッフ〉

製作ジョゼフ・E・レビン／製作マイク・ニコルズ
監督マイク・ニコルズ／脚本ジュールス・ファイファー
撮影ジュゼッペ・ロトウノ／編集サム・オースティン